

1 幼児期の「規範意識」とは

(1) 幼児期の教育における「規範意識」の位置付け

人の一生において、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。乳幼児期の子供は、生活や遊びにおける直接的・具体的な体験を通して情緒的・知的な発達や社会性を涵養し、人間として、社会の一員としてよりよく生きるための基礎を獲得していきます。

その中で、「規範意識」はどのように位置付けられているのでしょうか。学校教育法、保育所保育指針及び幼稚園教育要領においては、次のように示されています。

【学校教育法】

○ 第三章 幼稚園

第二十三条 幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

二 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。

【保育所保育指針】（平成20年3月告示）

○ 第三章 保育の内容

2 保育の実施上の配慮事項

(四) 三歳以上児の保育に関わる配慮事項

オ 生活や遊びを通して、決まりがあることの大切さに気付き、自ら判断して行動できるよう配慮すること。

【幼稚園教育要領】（平成20年3月告示）

○ 第2章 ねらい及び内容

人とのかかわりに関する領域「人間関係」

3 内容の取扱い

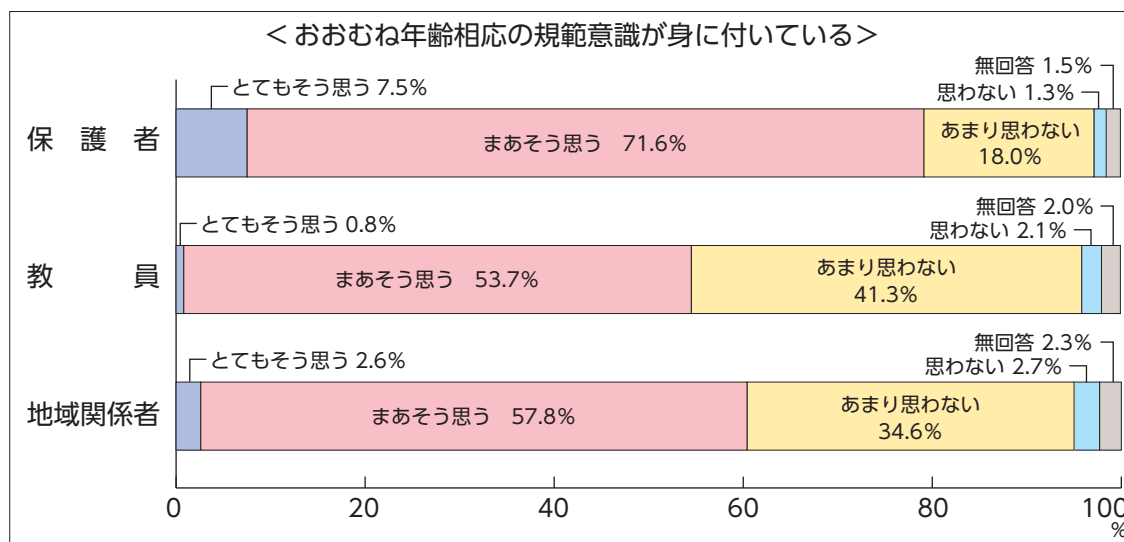
(5) 集団の生活を通して、幼児が人とのかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

人と人が尊重し合い、協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会の決まりがあります。幼児は、初めからそうした決まりを守ることができるわけではありません。また、集団行動の訓練のように画一的に指導し、守らせさえすればよいということでもありません。幼児自身が、集団生活や友達との遊びの中で様々な決まりがあることに気付き、決まりの必要性やその意味を幼児なりに理解した上で、守ろうとする気持ちをもつことが大切です。

(2) 幼児の「規範意識」に関する大人の意識

平成21年に全国国公立幼稚園長会が行った調査において、「幼児におおむね年齢相応の規範意識が身に付いている」の項目について、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した保護者は、79.1%、教員は54.5%、地域関係者は60.4%という結果でした。幼児の規範意識について、保護者と教員や地域関係者との間に意識の差があることが分かります。

幼児の規範意識を培うためには、家庭と連携を図り、幼児にとって必要なことを共に考えながら、幼児の経験を積み重ねていく必要があります。



「子どもの心によりそい、規範意識の芽生えを培うプログラムに関する調査研究報告書」
(平成22年3月 全国国公立幼稚園長会) から

2 本指導資料における「規範意識」の考え方

(1) 「規範意識」「規範意識の芽生え」の捉え

本指導資料においては、「規範意識」及び「規範意識の芽生え」を次のように捉えています。

規範意識とは

法令などの社会のルールの大切さを理解し、それらを守ろうとする意識

規範意識の芽生えとは

幼児が、人や物など周囲の環境と関わる中で、互いに気持ちよく過ごすために、感じ、考えて自分の気持ちや行動を調整（コントロール）しようとする心の働き